

第2学年音楽科学習指導案

日時 平成24年11月2日(金) 5校時
場所 大野町立揖東中学校(北舎3階音楽室)
学級 2年A組(男子11名・女子13名 計24名)
授業者 生田 容子

1 単元名「アカペラの魅力」

題材名「kun bar yah」「oh happy day」「ふるさと」

2 題材観

「kun bar yah」「oh happy day」はゴスペル曲の中でも有名で、映画にも取り上げられており、覚えやすい明るいメロディーと、ユニゾンまたはソロに3声のハーモニーが呼応する形式が特徴である。黒人霊歌の悲しい歴史の中で生まれ発展してきた背景を学ぶと共に、「声」を楽器にした演奏の迫力を感じ、誰もが持っている楽器としての「声」に憧れをもち、さらに身近に感じさせたいと考えている。また、「ふるさと」は1年生で2部合唱を体験しているが、2年生では変声期を終えた男子の低音が重なることで、1年生の2部合唱と比較して和音の厚みや広がりを感じることができ、1学期に声部の役割の単元で学習した内容を活用しながら、少人数で声を重ね、響きを聴き合いながら美しいハーモニーをつくりあげる表現の工夫を行いたいと考え、共通教材の「ふるさと」を本単元で選択した。

3 研究内容にかかわって(生徒の実態及び指導観)

【平成24年度 研究主題】

本校の研究主題は、「1「仲間とかかわり合いながら、いきいきと表現する生徒の育成～『言語活動』や『表現活動』の工夫を通して～」である。音楽科の演奏領域における「言語活動」とは、楽曲の構成や、歌詞や旋律などから曲に込められた願いを読み取り、どのような表現が適しているか、「p」「f」などの音楽記号や、「legato」などの音楽用語を用いて意見を交流する活動である。また、「表現活動」は、「言語活動」の場で交流した演奏方法を用いて表現を練り上げ、自己評価や相互評価を行いながら高め合う活動である。本年度の音楽科の授業では、曲を聴いて感じたことや、既習内容をふまえて楽譜を読み取ったことを基に、表現に関わる意見をもち、仲間と意見を交流したり表現を練り上げたりしていくという流れをつくった。生徒も表現に関わる言語活動や少人数での表現工夫になれてきた様子で、音楽的な意見もち交流することができるようになった。今後、さらに活発な言語活動や表現活動を行えるよう、次のとおり指導・支援や、活動の場面づくりを工夫した。

【研究内容ア】「生徒が主体的に教科の本質に迫るための『学び方』への指導・支援」

本単元は、楽曲を歌詞や曲の構成からつかみ取ったことを基に、そこから自分たちがどのように表現していきたいか考えたことを仲間と共有する言語活動と表現活動を軸としている。生徒が主体的に練り上げの活動をおこない、表現を深めていくために、「学び方」の育成を次のような視点で考えている。

- 感じ取りの視点 ・ 歌詞の視点と、曲想の視点から、楽曲に込められた作者の願いをつかみ取る。
- 個人追求の視点 ・ 曲のイメージをつかみとり、表現方法を工夫・選択する。
- 聴き合いの視点 ・ 曲のイメージに適した演奏になっているかを聴き合いながら練り上げる。
- 振り返りの視点 ・ 願いを表現するための工夫が演奏にあらわれていたかどうかを振り返る。

【研究内容イ】「広がり、深まることが実感できる『言語活動』や思いが伝わる『表現活動』の工夫」

身に付けた「学び方」を発揮する場として、以下のような場面を授業で設定する。

- 曲の雰囲気を感じる ・ 歌詞の視点、曲想の視点から、感じ取った雰囲気を交流する。
- 単位時間の流れ ・ 既習内容を基に前時までの表現を提示し、より適した表現を交流する。
・ 全体練習で、適した表現のイメージを具体的にもつ。
- グループでの練り上げ ・ 曲の雰囲気や願いを表現できているか、できていない場合は何を改善すると良いか(声の種類、大きさ、強弱やバランスなど)アドバイスをし合う。
- 教師による即時評価 ・ これまでに習得した内容を活用した表現の意見を全体に紹介する。
- 自己・相互評価 ・ イメージに近づく表現ができているか、聴き合ってアドバイスをしたり、自分の取り組みを振り返って評価したりする。

4 単元指導計画（全5時間）

【単元のねらい】

・声のみでつくられる美しいハーモニーを、仲間とともに作り上げることができる。

（学習指導要領 A表現（1）-ウ）

【単元の評価規準】

・曲の構成や歌詞の意味を考えたり、仲間の声を聴いたりしながら、自分のパートを歌おうとしている。

時	ね ら い	主 な 言 語 活 動 ・ 表 現 活 動
1	様々な国や時代のアカペラ曲を聴いて、それぞれの特徴を見つけよう。 ・様々なアカペラの曲を聴いて、それぞれの特徴をとらえ、味わう。（鑑賞）	・ゴスペルの歴史を学び、歌詞の意味や旋律、形式などから、曲に込められた願いを考え、発表する。 （仲間の意見から発見をしたり、最初に聴いた感想と比べて変わったりしたことを交流しあう。）
2	ユニゾンとハーモニーのかけ合いを味わおう。 ・Kum ba yah を歌唱し、ユニゾンと3声の部分の特徴を声で表現する。（鑑賞・歌唱） *ユニゾン＝語りかける 3声＝訴えかける	・曲の構成や、各声部の役割を考え、自分はどのように歌唱したらよいかという意見を交流する。 ・少人数で互いの声を聴き合いながら歌唱したり、聴き役の意見を聴いたりして練り上げる。
3	曲の構成を考えて声色を選択しよう。 ・Oh happy day を歌唱し、ソロパートと伴奏パートのかけあいを楽しむ。（鑑賞・歌唱） *ソロ＝語りかけ 伴奏パート＝ 優しいハーモニーで応える	・曲を鑑賞し、リードのメロディや後半のスキャットと、3声のハーモニーパートがそれぞれどのような役割をしているか、感想をもち、意見を交流する。 ・リードパートと伴奏（ハーモニー）が、互いに聴き合いながら歌声の会話を楽しむ。
4	声部の役割を考えてハーモニーをつくろう。 ・「ふるさと」の4部合唱を通し、各パートの役割を意識しながら、4声のハーモニーをつくる。（歌唱） *ソプラノ＝メロディ、バス＝支え、 アルト・テノール＝豊かな響き	・4声のハーモニーが創り出す、分散和音の美しさを感じ、各パートの役割を考えて表現工夫の交流をする。 ・各パートの役割を考えながら、4声の美しいハーモニーを練り上げる。
5 （本時）	旋律線の動きと各部の役割を考えて強弱を表現しよう。 ・「ふるさと」のA部分の合唱を通し、旋律線の上昇やフレーズ、構成などから、各部の役割を考えて、強弱や声色の表現を工夫することができる。 *第1フレーズ：旋律線上昇（cresc.） *第2フレーズ：旋律線下降（decresc.） *第3フレーズ：男声主旋律（女声ハーモニー） 旋律線上昇・下降 *第4フレーズ：旋律線下降（decresc.）	・A部分のハーモニーを美しく仕上げるために、4小節ごとのフレーズに分け、これまでに学習した内容（旋律線の動き、曲の構成）をもとに、強弱表現を工夫する。 ・少人数で互いの声やハーモニーを感じながら、強弱表現を練り上げる。

5 本時のねらい(5/5)

「ふるさと」のA部分の合唱を通して、旋律線や構成の変化に気付き、強弱を工夫して表現することができる。

6 本時の展開

学び方	学 習 活 動	評価 ○指導・支援
【前時までの復習】 ○拍子の特徴をとらえる ○音楽用語の復習 【感じ取りの視点】 ○声の選択 ○強弱、声量 ○主・副旋律の交替	1 準備運動 ・「ふるさと」4声の響きを確認めながら合唱する。 ・既習の音楽用語をフラッシュカードで復習する。 2 本時の課題を把握する。 ・「ふるさと」のA部分をフレーズに分け、旋律線の動きや構成から、どのように強弱をつけたり、どんな声を選択したりして表現するか、既習事項を基に発表する。 「思い出なので、なめらかにやさしい声を出す。」 「旋律線が上昇するところはクレッシェンドする。」 旋律線の動きと各部の役割を考えて強弱を表現しよう。 ・第3フレーズを示範演奏する。これで良いか？ 「男子が主役なので、もっと強く。」 「女声は音が上がるけれど、副旋律なので小さく。」 「女声は優しく飾りをつけるようにする。」 ・楽譜に、自分の表現意見を強弱記号で書き込み、班で意見交流をする。 「最初はmpから4小節目の終わりでfを目指す。」 「男声はfで女声はmpにしよう。」 「第4フレーズは落ち着くようにdecresc.しよう。」	ハーモニーを聴き合いながら歌おうとしている。 ○前回までに生徒が感じ取ったイメージを曲の途中で提示し、意識付ける。 ○ヒントカードを提示して意見を言いやすくする。 ○1学期の既習曲を例にあげて気付きを促す。 ○示範演奏をする。 ・バランスや役割を考えず、各パートの音の上昇下降に合わせて強弱をつける。 ・主役と飾りのバランスをつけて歌唱する。 ・既習内容を活用した書き込みをその場で紹介し、価値付ける。 ○生徒から出た意見が再現されるように助言する。 「最初から大きくしないで」「主役は誰？」 グループ練習で的確なアドバイ스가出たら、その場で価値付け、繰り返し練習を促す。 ○生徒の意見から、表現に関わることを強調して、歌唱表現に生かせるように意識付ける。 特に注意してできていた工夫をその場で価値付ける。
【個人追求の視点】 ○前半＜後半 表現イメージをつかむ	3 全体の歌唱練習でイメージをつかみ、グループに分かれてさらに練り上げる。 ・全体練習でそれぞれがイメージをつかむ。 「もう少し主役を強く。」「いきなり大きくしない。」「同じバランスのままで、cresc.とdecresc.しよう。」 ・12名ごとのグループで輪になり、お互いの声を聴き合いながら、適した表現かどうか意見交流をしながら練り上げる。 「はじめを小さくすると、クレッシェンドが効果的。」「もう少しなめらかにデクレッシェンドすると良い。」「急に大きくならないようにしてみよう。」 (聴き役を1人ずつ置く。全員で聴き合う)	【評価規準】 「ふるさと」A部分の合唱を通し、主旋律の動きや主・副旋律、支え・飾りなど、各部の役割を考えて、強弱の表現を工夫して歌うことができています。
【振り返りの視点】 ○グループで気をつけたところを意識して歌唱する ○気をつけた部分に着目して、感想を発表する	4 まとめの演奏と振り返り 注意したことや仲間からのアドバイスを発表して歌う。 「記号は同じでも、主役が聴こえるように強くしました。」「2小節でも強弱がつくように工夫しました。」 お互いの演奏を聴いて、感想を発表する。 「主旋律がよく聴こえた。」「なめらかにcresc.できた。」 「ふるさと」のA部分の合唱を通し、旋律線の動きと各部の役割を考えて強弱表現を工夫することができた。	○B→Cへの支援 仲間の表現を真似するように声をかけ、近くで一緒に歌い、参加を促す。